

水産分野におけるトレーサビリティシステム導入の実態と課題

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 樽井, 義和
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006756

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



水産分野におけるトレーサビリティシステム導入の実態と課題

水産経済部 流通システム研究室

背景・目的

1. 近年、食の安全や安心への関心の高まりから、水産分野(漁業・養殖業・水産加工業)においてもトレーサビリティシステムの導入が増えている。
2. しかし、導入実態の把握は進んでおらず、課題の検討も十分には行われていない。

成果

1. 水産分野では、リスク管理に対応した厳密な意味でのトレーサビリティシステムの導入事例は少なく、生産者情報や養殖履歴情報等を開示するシステムが多い。
2. 広く実用化を進めるためには、流通情報の管理、情報の収集と開示の関係、情報の信頼性、構築・運用コスト、システム連携、リスク管理機能等の検討が必要である。

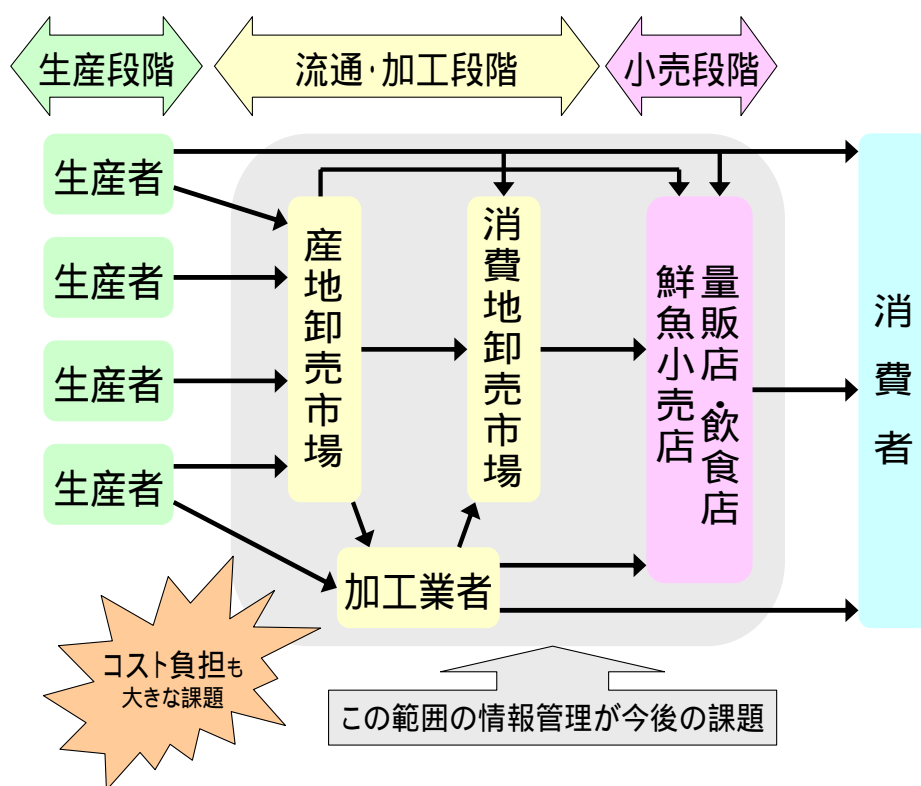


図1 水産物の主な流通経路

波及効果

1. 水産分野におけるトレーサビリティシステム導入の実態や課題を検討することによって、今後のシステム普及に必要な条件が明らかになる。
2. 業界関係者や一般消費者に対する啓蒙効果が期待できる。

連絡先

樽井 義和 TEL : 045-788-7674